

# とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名（園名等）	ベネッセ雑司が谷保育園
----------	-------------

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

色

<テーマの設定の理由>

日常にありふれている「色」を子ども達はどのように理解し、感じているのか？「色」を通して様々な表現活動を行う中で、色の知識を深め、「色」の繋がりから興味関心を広げていく。

## 2. 活動スケジュール

2025年6月～2026年2月

## 3. 探究活動の実践

<活動の内容>

講師に荒井将光先生をお呼びし、色への関心をより深め、絵具やクレパス、墨など様々な画材を使い、違いも知りながら表現を楽しむことを目的に絵画教室を行った。

○第1回絵画教室

用意したもの：4つ切り画用紙、絵具、クレパス

テーマ「さんぽ」に沿って、それぞれの表現を行う。クレパスを用いて、普段行っている散歩や行ってみたい公園を自分なりにイメージしながら描くことを楽しんだ。講師の先生や保育者が子どもたちの様子を見ながら「ここはなにがあるの？」など問いかけることで自分なりのイメージを広げ、「噴水があったらうれしいな」、「わたしもここで遊びたいな」「海の世界に行ってみたいな」など自分自身も絵の世界の中に入り込ませながらイメージを膨らませ楽しんだ。クレパスの複数の色を使い、重ねて塗ることで新しい色を作り出し、深い海を表現しようとする姿も見られた。クレパスで描いた絵の周りを最後に絵具で染め背景をつけることで、絵具がはじく様子も体験し、楽しむことができた。

○第2回絵画教室

用意したもの：ジャンボロール紙、絵具

1枚の大きな紙を使い全員で一つの作品作りを楽しんだ。前は3原色を使って描いたが、第2回の実践では薄い色を使って友だちの絵具と混ざらないように、交わらないように線を引いていき、一つの作品を作り上げた。作った作品を夏祭りなどの行事等で使用することで、自分たちが作った作品をみんなに見てもらえるといた満足感にもつながっている姿が見られた。

○第3回絵画教室

用意したもの：4つ切り画用紙、クレパス、墨汁

自分なりの植物を描いた。墨やクレパスを使い、種から植物が育っていく様子を表現することを楽しんだ。学年や性別をバラバラにして席を配置して行い個々がイメージする“種”を自由にのびのびと描いた。途中手が止まり行き詰まる様子も見られたが、友達の描いている絵や雰囲気を参考にしつつも、自分なりに変化させながら集中して取り組んだ。墨のポタポタとした感触を筆で確かめたり、匂を嗅いで「海苔みたい、いいにおいがする」などどんな匂いがするか自分なりに言葉で表現していた。

○第4回絵画教室

用意したもの：4つ切り画用紙、クレパス、絵具

「お弁当」をテーマに、子どもたちそれぞれが食べてみたいお弁当を描くことを楽しんだ。クレパスの使い方にも少しずつ慣れ、こすって色が変化することに気付いて実践する様子や、実際には入れることができないアイスやお寿司など、身近なものから自分なりにイメージし、あこがれのお弁当作りを楽しむ姿が見られた。

絵画教室は年齢的な発達を鑑み、4、5歳児を対象に行ってきたが、絵画教室での講師の方のご助言や技法なども担当が理解した上で、保育の中で3歳児向けにはじき絵を楽しむこともできた。

## <活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり>

活動中に講師の先生や担任保育者から表現を認められたり、イメージが広がるような問いかけや言葉かけをされたりする中で、今まで絵を描くことにあまり興味を示さなかった子どもも大きな紙いっぱいに自分なりの表現を楽しむ姿が見られた。実際に見たものを模写するのではなく、その子ならではの夢やイメージの世界を表現する活動が主だったため、「ここに花畑があったら楽しいかも」「大好きなアイスをお弁当に入れちゃおうかな」などそれぞれの自由な発想から広がっていく表現を楽しんだ。今までは全体的に絵を描く時の色の使い方が単調だったが、保育者や講師の方の「いろんな色があったらもっと素敵になるね」「色を重ねてもいいんだよ」などの言葉かけにより徐々に複数の色のクレパスを重ね、色の混ざりを楽しんだり、表現したい色に近づけるために新しい色を作ろうとしたりする姿も見られるようになっていった。さらに絵画教室以外の自由遊びの時間にも自ら絵を描くことを楽しむ姿が増え、全体的に表現活動がより活発になった。遊びの中でも「青色と黄色を混ぜて緑色を作ろう」と友だちと伝え合いながら、共同して製作を楽しむ姿も見られるようになった。絵画教室の間はあえて年齢や性別を分け席を配置したが、近くの席の友だちの作品を見る中で友だちの作品の良さにも気づき、同じものを描こうとする姿も見られたもののそれぞれの個性が表れ、オリジナルの作品になっていた。また、友だちから作品を認められるなかで自信となり意欲にも繋がっている様子が見られた。



## 4. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

絵画教室の活動を通して、子どもたちが色を重ねたり組み合わせたりしながら、自分なりのイメージを広げていく姿から、探究心と創造性が遊びや表現の中で豊かに育っていることを実感した。これまで単調になりがちだった色使いも、保育者や講師の問いかけや自分の作品を認められる経験をきっかけに、「もっと描いてみたい」「こんな色を作りたい」と楽しみながら試行錯誤する姿へと変化していった。また、同じ題材であっても描かれる世界は一人ひとり異なり、その子ならではの夢や発想が表れていたことから、個々の見方や感じ方を尊重することの大切さにも改めて気づかされた。さらに、色の混ざりや表現方法について友だちと伝え合いながら共同して製作する姿から、学びが個から集団へと広がり、対話を通してより深まっていく様子も見られた。今回の実践を通して、表現活動は、環境や問いかけによって子ども自身が広げていくものであることを学び、今後も一人ひとりの「描きたい」「やってみたい」という気持ちを大切にしながら、主体的な表現が生まれる環境と関わりを整えていきたいと感じた。